

震災のせいで、 進学をあきらめて ほしくない。



宿題をする場所がないため、グラウンドで勉強をしている被災児

3.11 から半年。宮城県女川町の今

私たちが今いる宮城県女川町。建物や道路の復興がひと段落した今でも、大地震の爪跡は子どもたちに根強く残っています。町立第二小学校の児童の9割、第一小の4割が自宅を流出。11件あった学習塾もほとんどが、津波で流され休業したままです。



震災後の女川町

勉強したいけど、する場所がない…

避難所の消灯後、携帯電話の明かりで本を読み続ける子。狭い仮設住宅の隅、1mに満たないすき間で机に向かう子。親が見ているテレビの音で、勉強に集中できない受験生もいます。子どもたちの学習環境への影響は今も深刻です。



今もテントで暮らす住民も

避難所や仮設住宅等の子どもたちのために

「震災があったから、夢をあきらめた」「受験に失敗した」「行きたい高校に行けなかった」こうした思いは、絶対抱いてほしくない…そこで私たち NPO カタリバが立ち上げたのが、「女川向学館」です。

震災で家が流されてしまって、震災直後は勉強できるスペースもありませんでした。他の家に移ってから家が狭くて勉強ができないと思っていたので、向学館が出来て本当に良かったです。受験生なので、ここで力をつけて必ず志望校に合格します！

